

・ 92年地理学教室の行事記録	1
・ 卒業論文公開口頭試験について	1
・ 非常勤講師の先生から	2
・ 3年生巡検報告	2
・ 国士館大学図書館にある地理学関連雑誌の一覧	5

【92年地理学教室の行事記録】

- 2月17～19日 平成3年度 卒業論文公開口頭試験  
2月26～27日 国士館大学地理学会冬季巡検（三浦半島で地形・地質観察：野口、長谷川）  
5月17日 国士館大学地理学会巡検（神奈川県秦野市周辺でテフラ観察：高野繁昭先生、長谷川）  
5月30日 国士館大学地理学会（於鶴川キャンパス）  
《講演会》瀬戸玲子「自動図化、GIS（地理情報システム）」  
《就職ガイダンス》二沢泰征氏（平成元年度卒、有隣堂勤務）  
高橋由香氏（平成2年度卒、古今書院勤務）  
6月3～4日 1年生巡検（埼玉県皆野町寄居町：長島、瀬戸、野口、長谷川、内田）  
6月27日 国士館大学地理学会巡検（佐原市と伊能忠敬記念館：瀬戸）  
9月13～15日 国士館大学地理学会夏季巡検（山口・萩・津和野の歴史と都市イメージ：内田）  
10月14～17日 3年生巡検（長野市：長島；新潟市：瀬戸；富士山：野口；  
新潟県津南町：長谷川；名古屋市：内田）  
11月17日 相模原段丘巡検（3年長谷川ゼミ、地形学履修者など：長谷川）  
12月3～4日 2年生巡検（諏訪市で都市気温調査、茅野市で農村調査：長島、瀬戸、野口、長谷川、内田）  
12月19日 国士館大学地理学会（於世田谷キャンパス）  
《講演会》水野一晴先生「卒業論文（20代前半に書く論文）はなぜ重要か？大学生だからこそできる地理学」  
《ゼミ発表》石崎裕、高橋誠、野田治夫、松林亮、伊藤恵喜

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合格を決めています。

今年度も、2月中旬に卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。公開試験なので1～3年生も出席し、今後の参考にする必要があります。なお、3年生は全員出席が義務づけられています。

試験は、持ち時間15分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジュメを用意し、出席者全員に配布できるよう準備してください。レジュメには当然のことですが、表題・日付け・発表者名・図表番号などを明記してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピーは必ず持参してください。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

重要事項！必ず読むこと！

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（1月初旬）に必ず返却して下さい。未返却者は、口頭試験が受けられません。

自己紹介

水野 一晴

研究テーマは高山植生の成立環境です。地理の分野で超マイナーな植生地理をなぜ専門にしたかという点、名大文学部の時の指導教官に、そのうち地理学に「植生」の時代がやってくると言われ、それを信じたからです。信じるものは救われると思ひ続け、幾年月、まだその時代はやって来ません。卒論は南アルプスで書きました。南アルプスを選んだ理由は、南アルプスが他の山に比べて体力が必要なため、調査する人が少なく、それだけやりがいがあるだろうと考えたからです。調査地域は北は北岳から南は光岳までで、今考えるとよくあれだけの範囲をやれたものだと自分ながら感心してしまいます。若い時は単純なので（自分だけかもしれませんが）、やる気になったのでしょう。このころの同じ研究室の先輩に、その当時からおたく評論家およびクイズ王として名をはせていた内田順文先生がいらっしゃいました。修士課程は北大大学院環境科学研究科に進み、修士論文は、大雪山のトムラウシ山を選んだ理由は、トムラウシ山が大雪山で最も奥深く、神秘的な山であり、ロマンチストの私にピッタリだと思ったからです。どこから登っても遠いので、調査する人がほとんどなく、自分の一步一步が大きく感じられました。第四紀の授業をされている沢口晋一先生とはこの頃からの腐縁で、お互いに足のひっぱりあいのライバルかつ悪友です。博士課程は、都立大学大学院理学研究科に進み、研究対象地域を北アルプスにしました。調査地域を選ぶため、北アルプスを縦走した時、黒部五郎岳と野口五郎岳の両カールが秋の紅葉に彩られ、その鮮やかさが私のメルヘンティックな心をとらえました。この両五郎岳も、ともに北アルプスでは最も奥深い山で、体力に陰りがみえはじめてきたこの頃、調査地に選んだことを後でずうーと後悔しました。これらの南・北アルプス、大雪山の研究成果を、"Alpine vegetation pattern in relation to environmental factors in Japanese high mountains"というタイトルの論文にまとめ、3年ほど前に理学博士の学位をもらいました。名刺に"理学博士"を刷り込んで、ねるとんパーティーに参加して配りまくろうと思っています。現在は日本学術振興会特別研究員（東京都立大学）で食いつないでいます。この夏、はじめて海外調査をケニア山で行い、これからは、海外に目を向けようと考えています。国士館大学の非常勤講師になったのも何かの縁ですから、授業をとっている、いないにかかわらず、Love sickからエイズ相談まで学生諸君のあらゆる質問、相談に応じます。

## 【3年生巡検報告】

長島ゼミ長野巡検

伊藤 恵喜

長島ゼミでは、長島弘道教授以下一行21名が10月12日（月）から15日（木）の4日間をかけて、秋風そよぐ信州路の長野市を中心とした地域を舞台に巡検を行いました。それぞれが各自のテーマを持って、長野市内あるいは近隣の市町村へ外出向き、地域調査を行いました。

今回の巡検で、ゼミメンバーが何についての調査を行ったかということ、長野市中心部の商業に関することや、住宅に関すること、長野県特産のりんご農業に関すること、スキー場などの観光開発に関すること、鱒の養殖、水道やごみ、または都市内のデザインといった行政がらみのことなど多岐にわたるものでありました。行政機関に出向く人や街中を歩きまわった人、文献探しに図書館に向かった人など様々で、目的地まで一時間かけて行ったり、宿舎へ戻って来たのが夜9時位になる人もいました。

宿舎となった「松代荘」は市街地から離れていて、調査に向かうには大変でしたが、温泉は5分も入っているとのぼせてくる程であり、食事もなぜか刺身が登場するなど、なかなか良いものであったように思えます。

夜になると、昼間行った調査をもとに2グループに別れてミーティングを行いました。それぞれの報告の後に、先生からの厳しく且つ鋭いツッコミをされ、困惑するメンバーも続出し、「果たして明日はどうすればよいのか?」と考え、ミーティング後も夜遅くまでいろいろと調査をまとめたりする状況でありました。4日間は実に短く、早いものであったように感じられました。

最後に、1・2年生に対して提言しておきたいことに、3年次の巡検は目的意識がはっきりしていないと何も出来ないということがあります。1・2年次の場合には、与えられた課題に対しレポートを書くものですが、3年次は各自設定出来るもので、自分が興味を持っているものについて行うことが出来ます。言うなれば自分の力を発揮できる機会であり、何気なく選んだテーマだとすぐ行き詰まってしまう。「自分はこれなら自信があるぞ!」というものでやってもらいたいです。そして、事前に巡検先での行動や必要な事柄について綿密な準備をして下さい。行く先で訪れる行政機関等へのアポイントメントは必ず取っておいて下さい。あと機会があったら、事前に巡検先を一度訪れ、下見がてら街中や地域をぶらぶら歩いてみるのはいかがでしょうか。そうすることによってなにか発見することが出来ると共に、巡検先に対するイメージや考え方、そして巡検へのヒントが見つかるかも知れません。その土地の風や匂いを感じとることによって、巡検を楽しくできるはずですから。それと、各自テーマは異なっても、どこか接点があるはずですから。協力しあうことにより、よりよいレポートが出来上がります。

10月12日～15日にかけての私たちのゼミの巡検は、新潟県新潟市周辺で行われた。最終日以外は、天気にも恵まれ、暖かく、各自、調査が、やりやすかったと思われる。また、宿舎も、新潟駅から、徒歩4分と、とても近く、周辺もにぎやかであったので、夜のミーティング後は、各自、夜の街も観察にでかけたのではなかろうか。

さて、調査は、1日目は、全員で、新潟県庁へ行き、その後は、各自、調査を行った。各自の調査内容と、調査で使われた機関は、次の通りである。

- ・井出雅晃 テーマ「新潟県新潟市中心部の現状と課題」新潟市役所、商工会議所、市立図書館等で調査。
- ・山内尊明 テーマ「新幹線・関越自動車道開通が及ぼした新潟市の産業の影響」新潟中央卸売市場、新潟市役所農林課、観光産業課、都市計画課等で調査。
- ・中川清一 テーマ「新潟市における住宅団地の形成について」新潟県庁、新潟市役所、新潟県立図書館にて調査。
- ・山下純司 テーマ「新潟市内の土地利用状況と開発（新潟地震後）」新潟県庁土地開発課、行政資料室、北陸地方建設局、県立図書館にて調査。
- ・土田方正 テーマ「新潟地震とその後の復興計画」新潟市役所土地開発課、新潟県庁行政資料室、北陸地方建設局、県立図書館にて調査。
- ・吉江健彦 テーマ「新潟海岸における海岸侵食の現状とその対策について」新潟県庁河川課、北陸地方建設局河川計画課、現地にて調査。
- ・堀江武史 テーマ「新潟海岸における海岸侵食」大河津分水路の通水によって深刻になった海岸侵食を調査。
- ・野田治夫 テーマ「水質汚濁と都市化の関係」急速に進んだ都市化によって都市の近くにある湖沼がどのような影響を受けたか。またそれに対してどのような対策が行われているか調査。

#### 野口ゼミ地理巡検報告書

野股 正宏

10月12日午後1時。今にも泣き出しそうな曇り空の下、我々野口ゼミのメンバー16人全員（うち女子4人）が地理巡検のため、電力ではなくあの橋本聖子が引っ張ることによってその動力を得ているという富士急行の河口湖駅に集合した。今回の我々の目的は河口湖及び富士山麓地域における小気候調査・植生調査にあった。メンバー全員が集まり、野口先生も姿を表すと、我々は当初からの予定であった河口湖測候所を訪問した。そこで測候所の仕事内容や観測機器等の説明を受けた後、我々は巡検の間お世話になる国民宿舎、富士河口湖ロッジに向かった。もうすでにその時、かなり激しい雨が降っていた。結局その日は雨のおかげで、全員で行う予定であった夜間気温観測は出来ず、今後の日程や調査に入る前の心構え等を先生から仰ぐだけであった。

10月13日 雨。午前から午後にかけて、我々全員は富士山についてより詳しく知るために山梨県立富士山ビジターセンターを訪問した。そこで富士山に関する様々な説明を受けた後、再び宿舎へ戻り、更に夜には晴れ間が覗くのを見計らって我々はなんとか夜間気温観測をすることができた。おかげでその日は、夜遅くまでデータ整理とその討議に追われることになった。

10月14日 今日も雨（もうすでに、みんなはうんざり状態）。この日は学生が各自自主的に作成したテーマに従って調査が行われた。河口湖を中心とした気温の分布状態を調べるグループもいれば、富士スバルライン沿いにおける偏形樹の調査をする者達もいたし、他にも河口湖の水質や植生を調べる者もいた。夜にはデータの整理をし、それらの結果に基づいてかなり突っ込んだ討議が行われた。

10月15日 やはり……雨。（ここまでくると、中には頭の中にカビの生えてくる者もいた）。午前10時頃には我々は宿舎を後にし、各自それぞれの思いを馳せながら帰宅の途についたのであった（寄り道をする者も結構いたが）。

このようにして我々の巡検は雨で始まり、雨で終わった。しかし、この嫌な気分を忘れさせてくれるのがやはり「夜の会合」であったかと思う（その内容については…書けない）。最後になってしまったが、この巡検において忘れてはいけないのが野口先生の熱心かつ親切な指導である。このおかげで我々は、たいへん実のある4日間を過ごすことができた。

#### 長谷川ゼミ 一ゼミ巡検で何をやったか？

海野 敬

今年の長谷川ゼミ（3年生）は教員1人、生徒6人（この原稿を書いている時点では1人減って5人）という非常に人数の少ないゼミです。人数の少なさと先生の温かい人柄ゆえ、非常にアット・ホームな雰囲気です。近年着実にゼミ員を増やしてきた（2人→4人→6人→8人→13人）長谷川ゼミですが、バブル崩壊のおかげか、今年は人数が激減しました。不景気ゆえの人員削減というワケではなさそうですが、理由はどこにあるのでしょうか？

さて、総勢7人で行われたゼミ巡検ですが、調査目的も、調査場所も、調査内容もみんな一緒、要するにみん

な一緒に調査するのが長谷川ゼミの巡検です。その調査も、結果を出すのが目的ではなく、地形調査のための方法や技術を学び、さらにお互いの親睦をはかるのが主な目的となっています。

具体的には、信濃川中流域における河岸段丘を観察するという事で、現地へ行く前に空中写真判読などをし、現地では露頭調査をしました。露頭調査では、①露頭によじ登り、②露頭の表面を先曲がりガマで削り、③堆積物の記載、スケッチをし、④写真を撮影、先生は8ミリビデオで撮影し、⑤サンプルを採る……ということをしました。

宿に戻ってからは、その日フィールドノートに記載したことをまとめ、その日撮った8ミリビデオを見、そして親睦を深め(雑談をする)ました。

調査の足は、今年から使用が復活したレンタカーでした。イヤー！、車での調査はハッキリ言ってイイですねー！何がイイかって？

①ほとんど歩かずにすむので、無駄な体力を浪費せず、露頭での調査に全力を注げる。②雨が降っても車の中に逃げ込めば濡れずにすむ(実際そんなことは先生が許さないが)。③移動の時間がアツという間であるので、広い範囲に渡って調査でき、また、一つの露頭で多くの時間を使って細かい調査も可能である。④車の中を泥だらけにしても、レンタカーなので誰にも怒られず、遠慮なく汚せる…といったことでしょうか。

ただ、『運転手は指導教授に限る』という条件付きであるため、長谷川先生の“華麗なるドライビングテクニック”に、ゼミ員一同「すごい運転技術だ！」と感動してしまいました。(先生、ギアチェンジぐらいはできるようにしてよネ！)

あと、今回の巡検で残念だったことは、露頭がなかなか見つからなかったことと天気が悪かったことです。(＊余談)長谷川先生の隣でナビをしていたK氏は、ある店で『頭脳パン』なるものを見つけ、「今日から賢くなるぜ！」と言ってニコニコしながら買っていた。翌日も「頭脳パン買いたい！」と叫んでいたが、その店の前を通らなかつたり、店が閉まっていたりで二度と食べることはできなかった。

The End

内田ゼミ(名古屋市巡検)

中村 仁一

私も内田ゼミは、4年ぶりに名古屋で巡検をすることが決まり、10月12～15日に実施されました。内田ゼミがどのようなか前は前々号のNewsletter(No.8)を参考にしてください。ここでは巡検の様子についてみてみます。

10月12日12時30分に名古屋駅太閤通口に集まった我々は、駅頭において事前ミーティングをした後、すぐに調査地へと皆向かいました。調査地域は美濃市・岐阜市・春日井市・岡崎市・高浜市・海部郡弥富町といった名古屋から約50kmの圏内に位置するのが大部分で、あまり遠方へと向かった仲間はいませんでした。夕方は7時30分に暮れなすむ名古屋の空の下に集まった我々はすぐに夕食をとり、そしてすぐにミーティングに臨みました。この後3日間ミーティングが毎晩行われ、遅い時だと深夜1時頃まで、各人がすごく時間をかけ、内田先生に手厚く指導されました。翌日以降は朝10時頃までには、皆が調査地へ向かい、熱心に調査を行いました。

10月15日の最終日は朝食をとりすぐ解散、また皆調査地へと向かいました。この日はミーティングや再度集合するといったことはなく、調べ足りない所を遅くまで、または満足のいく所まで調査しました。私は暗くなるまで調査をし、同じ地域を調べた仲間がいたので、その仲間と一緒に21:01発の新幹線で名古屋を後にしました。

1・2年の皆様にアドバイスをします。

巡検に臨むにはきちんと下調べをした上で参加するのが望ましいでしょう。私の場合、最初のテーマは三重県北部にある輪中について調べるつもりでしたが、内容があまり良くなく、出発直前にテーマを変え、そのテーマもまた内容が悪いため、現地についてからまたテーマを変えたため、テーマを見つけるのに現地の図書館に行ったために、1日半も時間を無駄に過ごしてしまいました。

また、公的機関や民間会社などに調査に何う計画がある場合には、必ず何う前に連絡を入れて下さい。現地についてから連絡をいれた場合、当日は都合がつかなくて対応できない場合があるからです。更に4日間のスケジュールは綿密につめて、質問事項も良く考え、相手先に失礼のないような質問や対応の方法を考えて下さい。特に、どのような質問をすべきかわからず、相手先との間で沈黙をしてしまうことは良くありません。

かくいう私も、Newsletterのバックナンバーを読みこの巡検に臨んだつもりでしたが上記のような失敗もありました。皆様か3年の巡検を迎えたら、本号をはじめNewsletterの偶数のバックナンバーには過去の巡検の様子がまとめられているので、参考にさせていただければ幸いです。Newsletterのバックナンバーは世田谷校舎の地理研究室に残っていますので、自由に閲覧して下さい。

最後に、今後の1・2年生は、3年になったら、ゼミの巡検がうまくいくよう成功をお祈りいたします。

※以上の文章(水野先生のふんも含む)は、原則としていただいた原稿どおりに掲載してあります。

【国土館大学図書館にある地理学関連雑誌の一覧】

地理学の研究に（とくに卒業論文の作製には）文献の収集は不可欠です。本学図書館が定期購入している雑誌のリストを挙げておきますので、どんどん活用してください。雑誌のほとんどは書庫に入っていますから、図書館の人に請求して、どしどし読みましょう。このリストは永久保存版の価値があります。

『和雑誌』

アフリカレポート	経済地理学年報
アジアアフリカ研究	経済統計月報
アジア経済	経済統計年報
アジア経済資料月報	気候系監視報告(1989-)
アジア経済研究所年報	気象 (1988-)
アジア太平洋経済社会年報	気象庁月報
アジ研ニュース	気象庁年報
秋田県気象月報	気象庁観測技術資料(1989-) (不定期)
青森県気象月報	気象庁技術報告(1989-) (不定期)
貿易と関税	気象研究ノート(1989-) (不定期)
房総地理	気象年鑑
カナダ研究年報	気象要覧(気象庁)(1989-)
地学雑誌	研究時報(気象庁)(1989-) (隔月+別冊)
地域	公害研究
地域開発	公害と対策
地形	工業立地
地球科学	交通と統計
地歴研究	日本統計月報
地理	日本気候表
地理学評論	日本リモートセンシング学会誌
地理教育	日本生態学会誌 (1988-)
地理歴史研究	農業気象
地理と経済	農業水産統計月報
地質学雑誌	農業と経済
地質と調査	大阪府気象月報
地図	沖縄問題研究シリーズ(財沖縄協会)
第四紀研究	歴史地理
ERSDAC ニュース(財資源観測解析センター)	歴史地理学紀要
福島県気象月報	歴史地理教育
月刊天文	リモートセンシング研究所報告(東京理科大学)
北海道の気象	RESTEC(リモートセンシング技術センター)
茨城県気象月報	雪水
遺伝	社会地理
岩手県気象月報	写真測量とリモートセンシング
人文地理	資源科学研究所彙報
情報処理	自然保護
情報の科学と技術	新地理
JODC ニュース(日本海洋データセンター)	植物と自然 鶴川
科学	測量
科学朝日	水温の研究
海外移住	水利科学
海岸	天気
海岸統計	東北地理
観測所気象年報	東北大学理科報告
河川	東京大学地震研究所彙報
環境情報科学	東京都気象月報
環境研究	都市計画(1989-)
活断層研究(活断層研究会)	都市問題
計測と制御	アーバンクボタ
経済	山形県気象月報

『洋雑誌』

Agricultural and Forest Meteorology (1988-)  
Annales de géographie (Paris)  
Annals of the Association of American Geographers  
Archives for Meteorology, Geophysics and Bioclimatology, Series B (1988-)  
Arctic and Alpine Research (1988-)  
Catena  
Climatic Change (1988-)  
Earth Surface Processes and Landforms  
Economic Geography  
Die Erde  
Erdkunde  
Geografiska Annaler (1988-)  
Geographical Abstracts: Physical Geography (1989-)  
Geographical Journal  
Geographical Review  
Geographische Zeitschrift  
Geography  
GeoJournal  
The Heating and Air Conditioning Journal  
Heating, Piping and Air Conditioning  
Institute of British Geographers Transactions and Papers  
Instruments and Control Systems  
Journal of Biogeography (1989-)  
Journal of Climatology (1988-)  
Journal of Ecology (1989-)  
Journal of Geography  
Journal of Geology  
Journal of Irrigation and Drainage Engineering(ASCE)  
Journal of Soil Science  
Monthly Climatic Data for the World (1989-)  
Nature  
Photogrammetric Engineering and Remote Sensing  
Professional Geographer (1989-)  
Progress in Physical Geography  
Quaternary Research (1988-)  
Remote Sensing of Environment  
Science  
Zeitschrift für Geomorphologie